

千葉 寿夫（ちば・としお）

1、プロフィール

昭和 21 年児童劇団弘前子ども会を創設。昭和 23 年頃よりNHK青森、弘前、仙台放送局学校放送台本執筆依頼。昭和 25 年 10 月新劇の会「雪国」(後の劇団「雪国」)を創設した。

<生没>

1922(大正 11)年5月 19 日 ~ 2005(平成 17)年3月 15 日

<代表作>

『明治の小学校』『津軽のメルヘン』『レモンとメロン』『雑文』『子どもの伝記物語・ゲーリック』

<青森との関わり>

終戦後いち早く児童劇団弘前子ども会創設。放送劇などを通して地域文化の向上に寄与。演出家としても活躍。

2、作家解説

劇作家。演出家。教育者。大正 11 年5月 19 日青森県弘前市和徳町に生まれた。本名は寿雄。教職を志し、男子付属小学校高等科に入学。青森市に下宿、青森師範学校本科第一部卒業、翌 18 年青森師範学校男子研究科修了。上北郡澤田国民学校訓導を振り出しに弘前市立和徳小学校教頭、同高杉小学校長、弘前市立第一大成小学校長並びに弘前市立弘前幼稚園長を兼任。昭和 58 年から平成7年にかけて弘前市教育委員を歴任。また作文指導、学校劇の指導を中心に国語教育の実践に努め、国語教育の充実発展に力を注いだ。更に児童文学、郷土史など著作活動を通し、地域の国語文化に寄与。主要実績としては昭和 21 年児童劇団弘前子ども会を創設、昭和 23 年よりNHK青森、弘前、仙台放送局より国語、社会科の学校放送台本執筆を依頼され、NHK放送事業協力

感謝状、博報賞を受賞。教育関係では青森県教育史6巻、弘前市教育史2巻の編集執筆員としても委嘱されている。

昭和25年10月4日、新劇の会「雪国」を創設。弘前市元大工町在住の歯科医で新劇俳優経験者長内和夫(東京「太陽座」「黒石劇研」)を中心に毎月3回、脚本朗読会の形で会が開かれた。会員20名、顧問は久藤達郎、瀬戸英雄、鳴海完造の3名。第1回脚本朗読会は昭和25年12月24日、会場は第一大成小学校付設の弘前幼稚園で開催。劇団と呼ばれるようになったのは第6回公演「ワーニヤ叔父さん」(昭29)の頃からである。演出作品として特筆すべき戯曲は久藤達郎作の「東風の歌」である。昭和30年10月第8回公演が初演、次いで昭和37年、昭和47年と劇団のレパートリーの中でも数多く取り上げられている。久藤とのコンビでの演出はほかに昭和35年「宮沢賢治伝」同41年「明治の学校」同44年「林檎事始」などがある。劇団歌の作詞者は高木恭造、作曲は木村繁であった。エッセイストとしても著書が多く、『津軽メルヘン』『続津軽メルヘン』『レモンとメロン』『続レモンとメロン』『疎開中の石坂先生』などがある。

3、資料紹介

○「東風の歌」4幕 久藤達郎作 千葉寿夫演出

舞台プログラム

1962(昭和37)年10月21日

180mm×256mm

「東風の歌」が劇団「雪国」で上演されたのは昭和30年が初演、次いで37年、47年と三度も取り上げられている。ともに千葉寿夫演出であり、初めて演出した記念すべき作品でもある。三回目の配役も主役の惣兵衛は長内和夫であった。この公演は市民文化祭参加作。